

KANZAKI NOH NI SITASIMUKAI

神埼 能に親しむ会

能
松風

まつかぜ

多久島法子

月明かりに照らされる形見の袖
それは二人の愛の形

松風



舞囃子

小督

恐之舞

多久島利之

狂言

樋の酒

野村

万禄

仕舞

三山

大槻

文藏

大槻

裕一

みつやま

ひのさけ

こんじ

かしこみのまい

(人間国宝)

2022年9月11日(日)

13:00時開演(12:00開場)

神埼市千代田文化会館
(はんぎーホール)

「松風」を面白く観るための事前講座開催

詳しくは裏面をご覧ください

入場料

指定席/6,000円(神埼市民 5,000円)
自由席/4,000円(神埼市民 3,000円)
学生席/1,000円(自由席)

<お問合せ・事前講座予約>

多久島法子

mail:nri-tkm@hotmail.co.jp

TEL:070-5400-8322

チケット販売所:

千代田文化会館(はんぎーホール)TEL.0952-44-2051

神埼市中央公民館 TEL.0952-53-2325

佐賀玉屋プレイガイド TEL.0952-24-1151

福岡大濠公園能楽堂事務所 TEL.092-715-2155

多久島利之 TEL.092-851-8504

主催/能に親しむ会

共催/神埼市・神埼市教育委員会・神埼市文化連盟

後援/神埼市観光協会・佐賀新聞社・西日本新聞社

神埼能に親しむ会

令和四年 九月十一日(日) 午後二時開演
於 神埼市千代田文化会館(はんぎーホール)

仕舞

笹之段 狂女百万 川原 桂子

俊成忠度 平忠度の亡霊 久保誠一郎

井筒 有常の娘の亡霊 武富 昭

大江山 酒呑童子 山口剛一郎

善界 天狗 善界坊 井内 政徳

舞囃子

小督

恐之舞

源仲国 多久島利之

主人 吉良 博靖

樋の酒

大郎冠者 野村 万禄
次郎冠者 杉山 俊広

狂言

大鼓 白坂 信行
小鼓 幸 正佳

笛 竹市 学

地謡

井内 政徳 久保誠一郎
今村嘉太郎 山本 博通
今村 一夫

仕舞

三山 櫻子 大槻 裕一
桂子 大槻 文蔵

休憩二十分

後見 近藤 信一

今村 一夫
山本 博通
多久島利之
浦田 保親

松風

村雨 木月 晶子
松風 多久島法子

旅ノ僧 坂苗 融

浦人 吉住 講

能

大鼓 白坂 信行
小鼓 幸 正佳

笛 竹市 学

後見 山口剛一郎
武富 康之

久保誠一郎 山本 博通
大槻 裕一 大槻 文蔵
浦田 保親 多久島利之

(終了時間午後四時二十分頃) ※関係者以外の録音、撮影は固くお断り致します。

9/11(日)の本公演にむけて、松風について詳しくお話をします。

「松風」を面白く観るための事前講座



多久島法子

9/3(土)

11:00~12:00

1 料金 / 1,000 円 (チケット購入者無料)

会場 / 森本能舞台
福岡市中央区警固 3-8-1

9/4(日)

11:00~12:00

2 料金 / 1,000 円 (チケット購入者無料)

会場 / 神埼千代田交流センター
(元千代田庁舎)
神埼市千代田町直島 166-1

9/4(日)

14:00~15:00

3 料金 / 1,000 円 (チケット購入者無料)

会場 / エスプラッツ3階(練習室)
佐賀市白山 2-7-1

事前講座のお申し込みはこちらまで▷多久島法子 mail:nri-tkm@hotmail.co.jp TEL: 070-5400-8322

佐賀方面 社会保険病院方面
至 城島方面 佐賀市街方面 溝口方面

神埼駅方面 城原川 直島バス停 藤の木交差点 久留米方面

国道 264 号線 千代田交流センター 神埼市千代田文化会館 (はんぎーホール)

佐賀駅からはバスが便利!
路線バスのご案内
45 佐賀バスセンター→直島
11:34発→12:00着

■JRをご利用の場合
・JR 佐賀駅下車 ・JR久留米駅下車 西鉄バス45 直島バス停より徒歩2分
■車利用の場合
・長崎自動車道 東春振ICより 約15分 ・JR長崎本線 神埼駅より 約10分
・JR長崎本線 佐賀駅より 約15分 ・佐賀空港より 約25分

神埼市千代田文化会館(はんぎーホール)
〒842-0053 佐賀県神埼市千代田町直島57番地1

松風 あらすじ

旅の僧(ワキ)が須磨の浦を訪れると、一本の松の木が目にとまった。昔の松風・村雨という海女の姉妹に所縁のある木だと聞いた僧は、この松を弔い、日も暮れたので浜辺の小屋に泊まろうとする。そこへ、小屋の主である海女の姉妹(シテ・ツレ)が現れ、月光の下で汐を汲み、小屋に帰ってくる。姉妹ははじめ宿泊の願いを断ろうとするが、相手が僧と知ってこれを許し、自分たちこそ松風・村雨の霊であると明かす。二人は、昔在原行平が須磨に下向してきたときに召された海女で、行平が都へ帰り程なく亡くなってしまうことを嘆き悲しむのであった。松風は行平の形見の衣を取り、これを身につけて恋慕の思いをいっそう強くしてゆき、ついに想いゆえに狂乱し、行平を恋慕って舞を舞う。汐汲み車の型やクセの長絹の扱い、後半の舞と気の抜けない曲ですが、実に面白く、繊細な心情表現が魅力の一曲。